

6 軟式庭球部

委員長 飯島 隆

軟式庭球の名委員長として多年活躍された高坂寛先生よりバトンを渡され、43年4月より委員長の重責を負って一年間、テニスの仕事に追い廻わされ夢中で過してきた。特に5月から8月まで、大会日程の詰っている期間は体がいくつあっても足りない忙しさであった。委員長という任務の容易でないことを身をもって体験し改めて前任者の苦勞に感謝の気持ちが湧いてきた。新部長には土浦二高校長の山口勇吉先生を迎え、格別の御理解を頂きました役員はじめ関係諸先生方の御協力があった、無事に本年度行事が終了したことは同慶の至りである。

本年度の活動状況は別紙報告の通りであるが何と云っても金星は、千葉市の関東大会個人戦で日立工業の鈴尾鈴木組、鉾田二高田口広瀬組が男女揃って優勝を飾ったことである。そのうち女子は二位田中田中(土二)三位長谷川長谷川(波崎)と上位を本県が独占する快挙をなし逃げ、本県軟庭史上初の大記録を樹立したことである。その他豊田桑原(日一)が五回戦に進出して奮闘したのも目立った。

また、女子団体戦では土浦二高が第3位入賞を果たすなど本県の意気盛んなところをみせた。今年は例年になく各選手が自信にみちたゲームで自己の本領を発揮してくれた。

しかし広島島のインターハイでは期待された選手が意外な成績に終り、五回戦進出で、小川若松(一)、田中田中(土二)、村田桜井(石二)らが善戦したのみで、鈴尾鈴木(日工)、田口広瀬(鉾二)は共に四回戦で敗れ無念の涙をのんだ。団体戦は土浦二高が大活

躍して準々決勝に進出、大分扇城高と大熱戦を展開して第4位入賞した。茨城の面目にかけて頑張った土浦二の活躍ぶりは深く印象に残るものがあった。尚土浦二高は五年連続出場の表彰をうけ、その功績が讃えられた。今後の精進を願って止まない。

国体関東地区予選は、優勝候補にマークされた女子が不振で本大会出場権を逸したことは全く残念だった。しかし男子は大木監督のもとに有利に試合を進め、見事3位で予選通過、福井国体に出場。2回戦で大阪と対戦敗れたが内容的には決して見劣ることなく善戦、県内の各大会では前記鉾田二の田口広瀬日立工の鈴尾鈴木の活躍が光った。来年度も秀れた選手が続出することを期待したい。

今年度はルール改正があるということで大会当初から大分気をもんだが結局44年4月より新ルールによって実施されることになった。先般改正説明会を開催したところ多数の参加者を得た。更に御研究の上来年度はスムーズに試合が出来るよう協力願いたい。

今年は高校女子が強化種目指定を受け強化練習を重ねて国体得点を目指したが結果的には所期の目的を果せなかった。来年は国体選手の選抜方法にもリーグ戦の数を増やすなど新方式を検討したい。会場では県営コートについての不満、大会運営では新人戦の反省があったが底辺拡大の意味合いから当分例年通り実施するつもりである。今後共当部発展の為よろしく御協力願います。

1	豊田・桑原(日一)	4	0	4
12	神谷・山崎(水工)	0	4	4
17	福田・宮内(玉工)	2	1	4
23	松本・稲葉(館一)	2	4	4
24	宮田・藤郷(結一)	2	4	4
34	給前・黒須(鹿島)	2	4	4
41	井原・原田(石一)	2	4	4
46	清水・渡辺(多賀)	2	4	4
47	砂押・岡田(水農)	2	4	4
53	谷口・吉川(竜一)	2	4	4
60	豊田・伊藤(日一)	2	4	4
64	豊田・平山(水商)	2	4	4
75	安部・窪木(多賀)	2	4	4
80	仲川・佐川(土工)	2	4	4
82	広川・大貫(高萩)	2	4	4
92	鈴尾・鈴木(日工)	2	4	4

男子
優勝 白井・木村(銚田一)

小林・鈴木(磯原)	93
小深作・大場(水工)	101
中島・榎戸(妻一)	105
本宮・小堀(鹿島)	115
早川・武藤(水一)	116
藤沢・山本(霞浦)	126
本橋・富山(竜一)	132
竹林・西野(緑岡)	133
小倉・島山(日工)	139
山野辺・横溝(水一)	150
村山・田村(磯原)	154
堀・小田倉(水)	161
多賀谷・川瀬(高萩)	162
横倉・山内(館工)	172
長山・高橋(大一)	178
白井・木村(銚一)	182

1	真藤・市原(土二)	2	4	4
10	谷田部・山内(妻二)	2	4	4
11	迎・山口(石二)	2	4	4
15	高野・田中(銚二)	2	4	4
20	田口・広瀬(銚二)	2	4	4
27	山崎・住谷(水三)	2	4	4
29	菊地・沢畑(淡二)	2	4	4
38	百瀬・菅谷(結二)	2	4	4
39	村田・桜井(石二)	2	4	4
47	藤原・林(日二)	2	4	4
49	鬼沢・牧野(銚二)	2	4	4
56	渡辺・金沢(妻二)	2	4	4
57	津久井・野沢(土二)	2	4	4
62	青木・鈴木(磯原)	2	4	4
69	豊崎・川崎(日二)	2	4	4
75	小林・渋谷(館二)	2	4	4

女子
優勝 田口・広瀬(銚田二)

長谷川・長谷川(波崎)	76
石崎・菅谷(銚二)	84
奥村・小谷野(磯原)	86
大木・弓削(古二)	94
野口・内田(石二)	95
井坂・伊藤(銚二)	103
藤田・山野(水二)	104
服部・石島(結二)	112
大野・入江(土二)	116
沢畑・沢畑(水三)	121
河原井・倉持(妻二)	122
河田中・田中(土二)	130
神水・村田(磯原)	132
田府田・館野(妻二)	136
住谷・根本(淡二)	143
野村・飯村(結二)	149

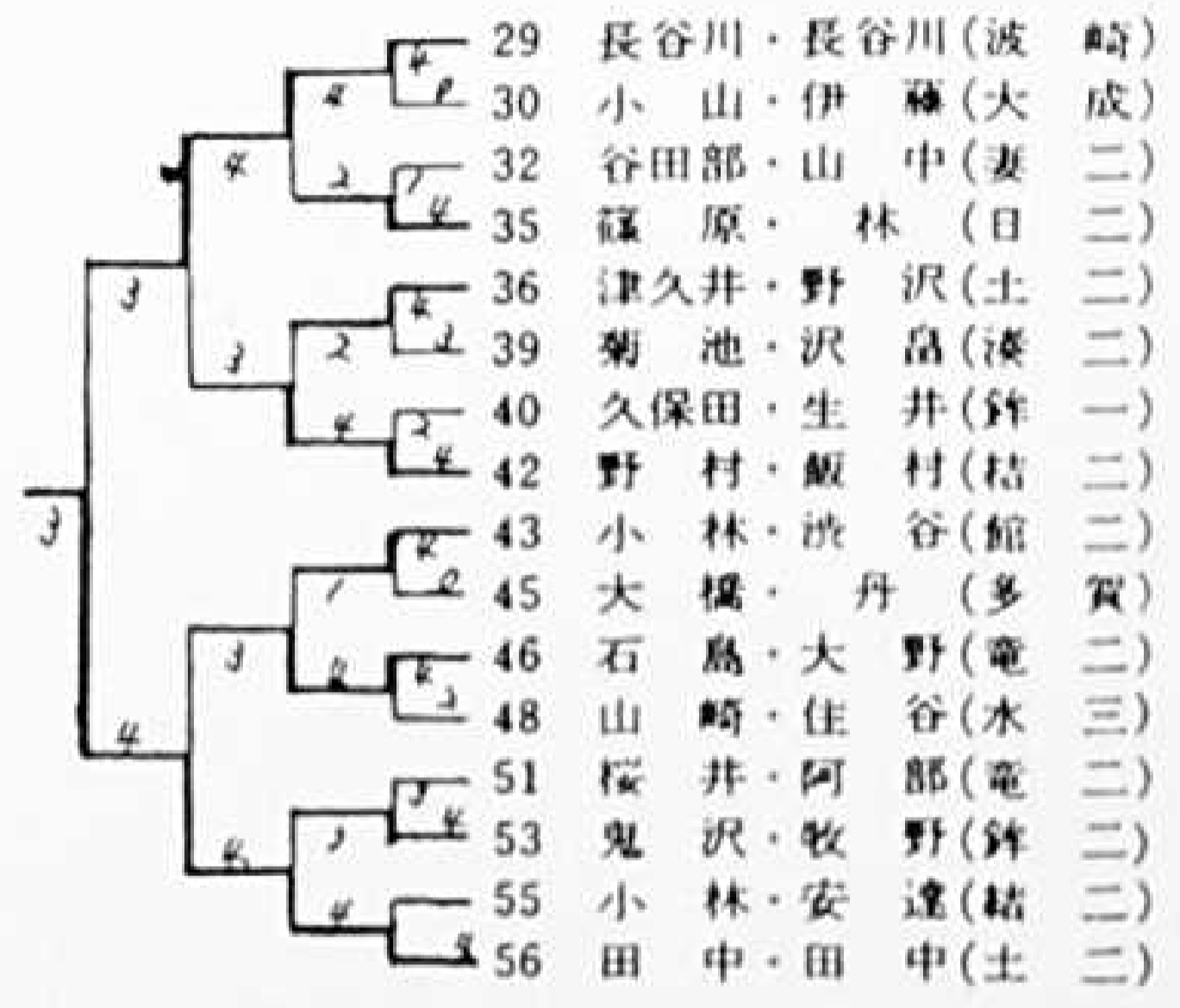
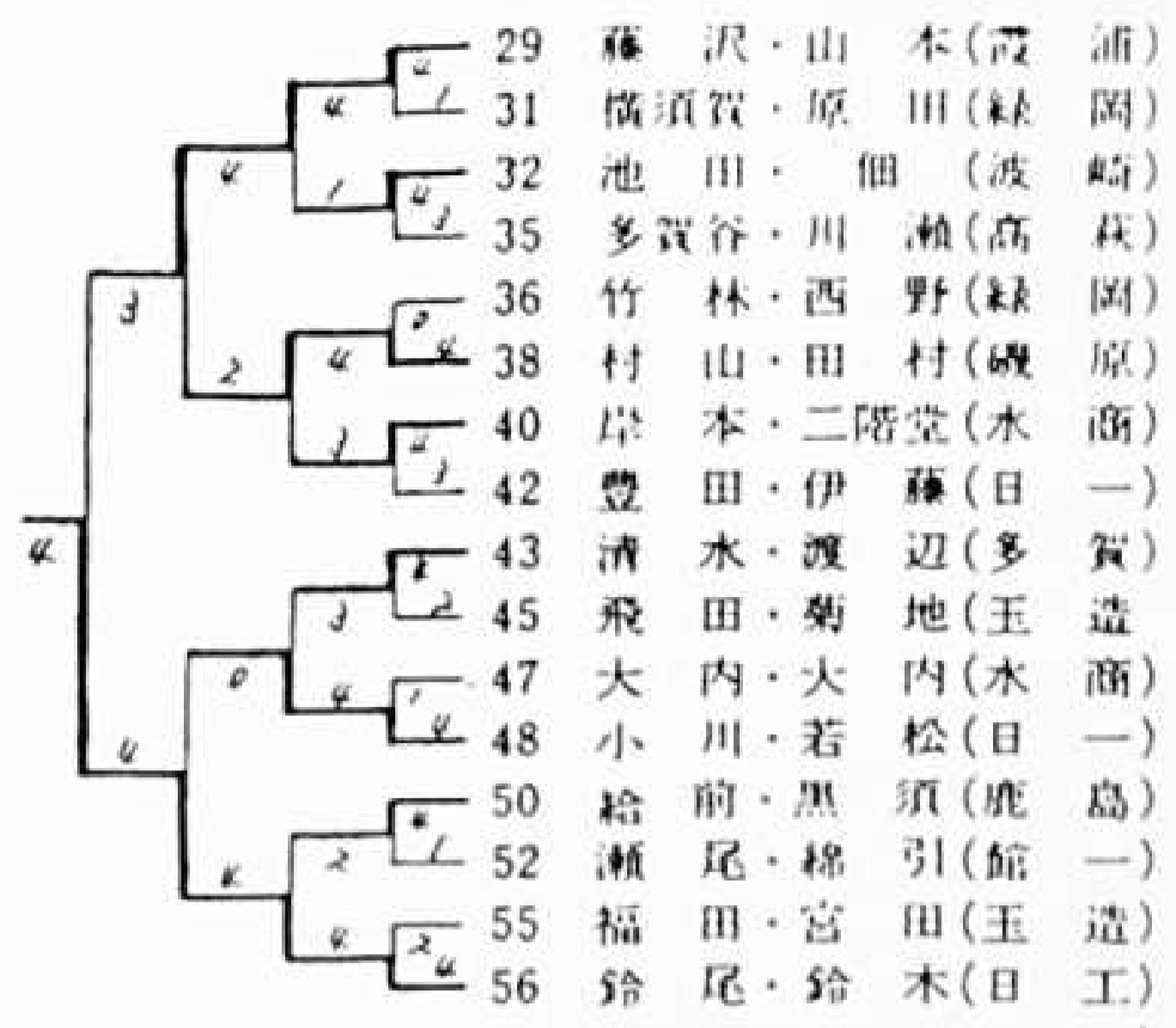
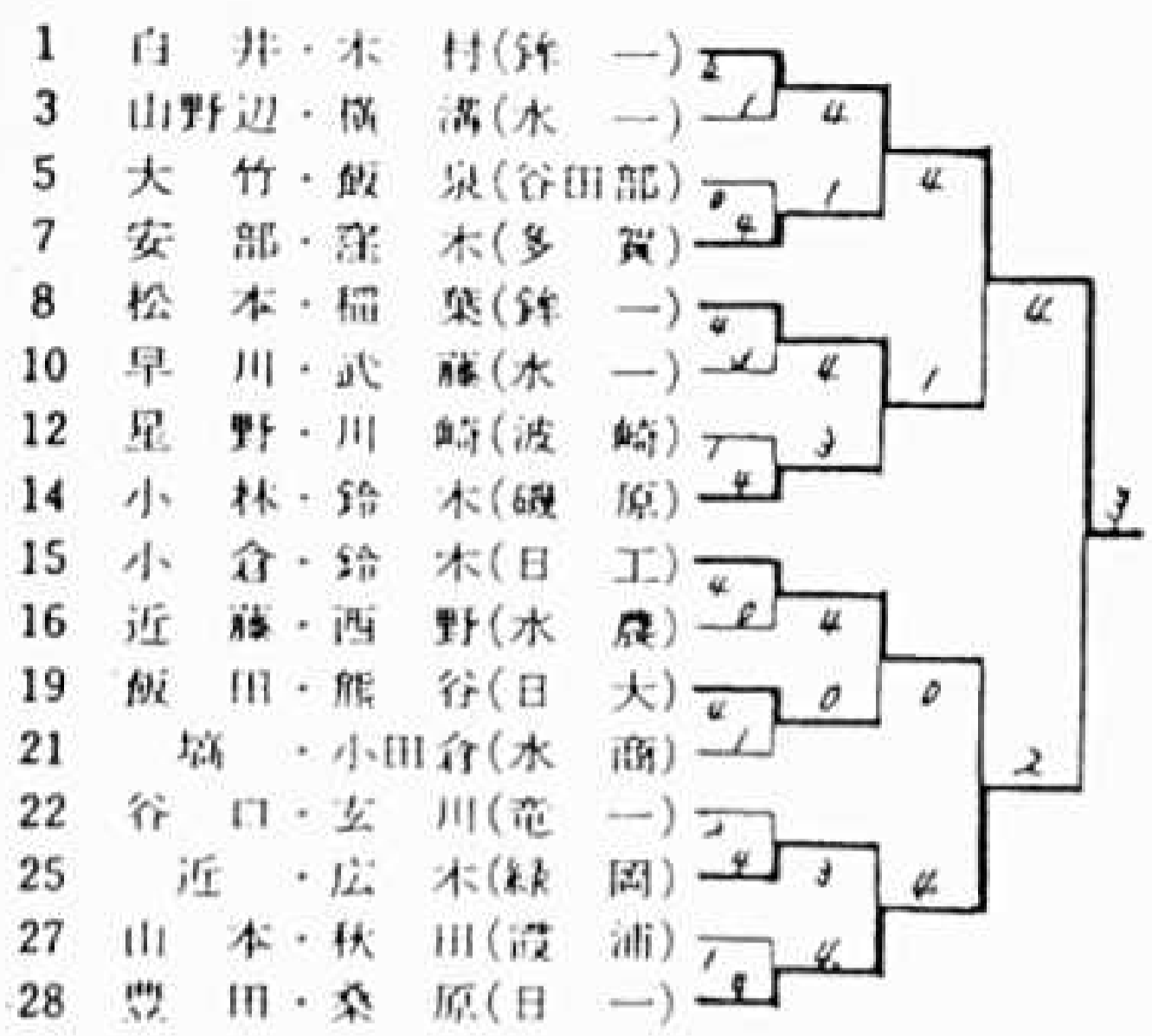
(戦評)

(男子) 男女 335 組が参加、土浦を会場として本年度初の県選手権を闘った。男子ではシード組が順当に駒を進め、試合が進むにつれて白熱したゲームが展開された。決勝戦では昨年も県外で活躍の第3シード白井・木村(銚一)が第一シードの豊田・桑原(日一)を4-1で押え優勝した。その他豪快なテニスをする新鋭藤沢・山本(霞浦)、ねばりと闘志を持つ小林・鈴木(磯原)、清水、渡辺(多賀)らの進出が目立ち今年の本県主力メンバーとして県外に活躍が期待される。

(女子) 昨年の国体予選新人戦、関東インドア大会等に頭角を現わして本年の実力ナンバーワンと目された真藤・市原(土二)、服部・石島(結二)野村・飯村(結二)、本多・寺田(日二)らの大物がばたばたと倒れシード組の面目をまるつぶしにした。

反面それだけ女子の試合が如何にむずかしいものであるかを示す証左でもあった。結局決勝では新鋭、田口・広瀬(銚一)と昨年全国大会5回戦の経験を持つ田中・田中(土二)の対戦となり、広瀬組が4-2で初優勝した。

30



(戦評) 関東大会出場権をかけた試合だけに一戦一戦ひきしまった試合がみられた。男子では4本シード組が順調に準決勝へ進み、前回の春季大会で対戦した白井、木村(銚一)と鈴尾、鈴木(日工)が決勝で熱戦を展開。鈴尾、鈴木が4-3で雪辱した。

尚、藤沢、山本(霞浦)、豊田、桑原(日一)の技量伸張がみられ本大会での活躍が楽しみである。女子では前回春季大会優勝の田口、広瀬(銚二)が安定した力をみせ、決勝戦で田中、田中(土二)と3-3の接戦、田中・田中組のサービスの不安定から試合は銚

田二の田口・広瀬のものとなり4-3で連続優勝となった。

その他、長谷川・長谷川(波崎)はスピードとドライブのきいたストロークに成長がみられた。また第4シードの渡辺、金沢(古二)が突如現われた新人矢口・柴山(土二)に敗れたのは番狂わせであった。

この大会で男女各々16組が千葉市で行われる関東大会に出場権を得た。女子は昨年、土浦二が準々決勝へ二組進出しているのも今年も大活躍が期待できる。

関東・全日本高校軟庭県予選(団体戦)

6月15日 於土浦市営コート, 土浦二高コート

男子予選リーグA

A	1 日工	2 麻生	3 下妻	4 水戸	5 五道	順位
1 日工	-	②	③	③	②	1
2 麻生	1	-	③	1	1	4
3 下妻	0	0	-	0	0	5
4 水戸	0	②	③	-	②	2
5 五道	1	②	③	1	-	3

男子予選リーグB

B	1 緑岡	2 鉾一	3 日大	4 日一	5 五道	順位
1 緑岡	-	②	②	③	③	1
2 鉾一	1	-	②	0	②	3
3 日大	1	1	-	1	②	4
4 日一	0	③	②	-	②	2
5 五道	0	1	1	1	-	5

男子決勝リーグ

	1 水戸	2 日工	3 緑岡	4 日一	順位
1 水戸	-	0	0	0	4
2 日工	③	-	②	1	②
3 緑岡	③	1	-	③	①
4 日一	③	②	0	-	3

女子予選リーグA

A	1 石二	2 古二	3 磯原	4 水一	5 麻生	順位
1 石二	-	1	③	②	②	2
2 古二	②	-	②	②	3	1
3 磯原	0	1	-	③	②	3
4 水一	1	1	0	-	11	4
5 麻生	1	0	1	11	-	4

女子予選リーグB

B	1 水三	2 日一	3 鉾二	4 結二	5 土二	順位
1 水三	-	1	0	0	1	5
2 日一	②	-	1	②	②	3
3 鉾二	③	②	-	②	0	2
4 結二	③	1	1	-	0	4
5 土二	②	1	③	③	-	1

女子決勝リーグ

	1 石二	2 古二	3 鉾二	4 土二	順位
1 石二	-	1	1	1	4
2 古二	②	-	0	1	3
3 鉾二	②	③	-	0	②
4 土二	②	②	③	-	①

全日本高校軟庭団体戦出場メンバー

男子 緑岡高

監督 大木 弘寿
選手 近 秀一, 広木邦昭, 竹林 馨
西野 俊昭, 高崎信行, 渡辺喜久雄
補欠 横須賀忠行, 原田良一

女子 土浦二高 連続5回

監督 飯島 隆
選手 田中美智子, 田中淑子, 真藤 信子
市原 則子, 矢口美恵子, 柴山 恵
補欠 新関利子, 塚地幸子

(戦評) 高校生にとっては6月15日団体戦翌16日個人戦は雨で17日に、いずれも土浦市営, 土浦二高コートで実施した。団体戦は予選リーグの上位2校が決勝リーグを行ない1位が全日本大会と関東大会へ, 2位は関東大会だけに出場することになった。男子では緑岡がよくまとまり接戦の末伝統の日立一, 日

関東高校軟庭団体戦出場メンバー

下記全日本参加校と県予選2位校

男子 日立工業高校

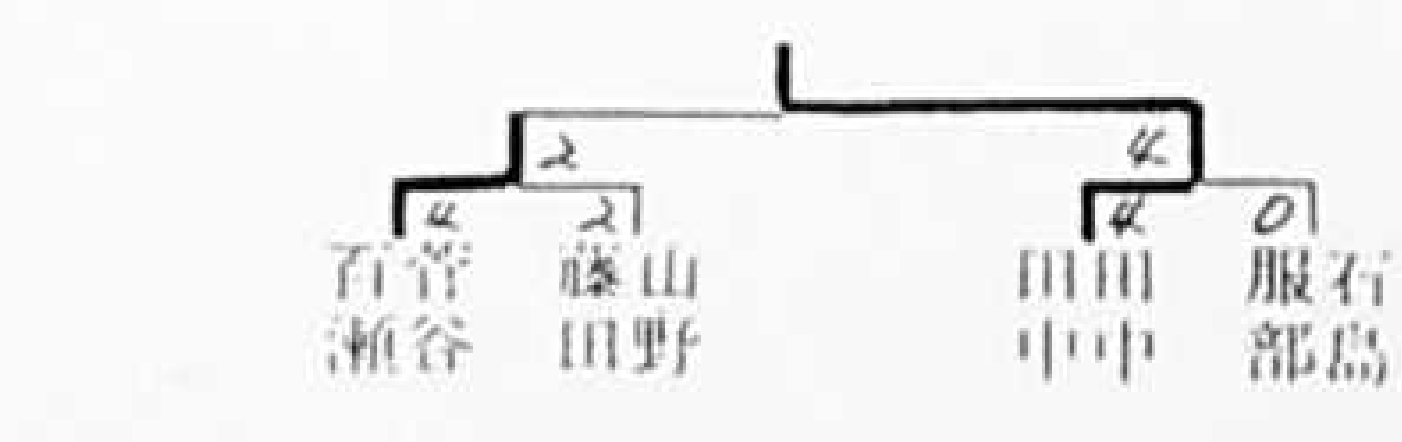
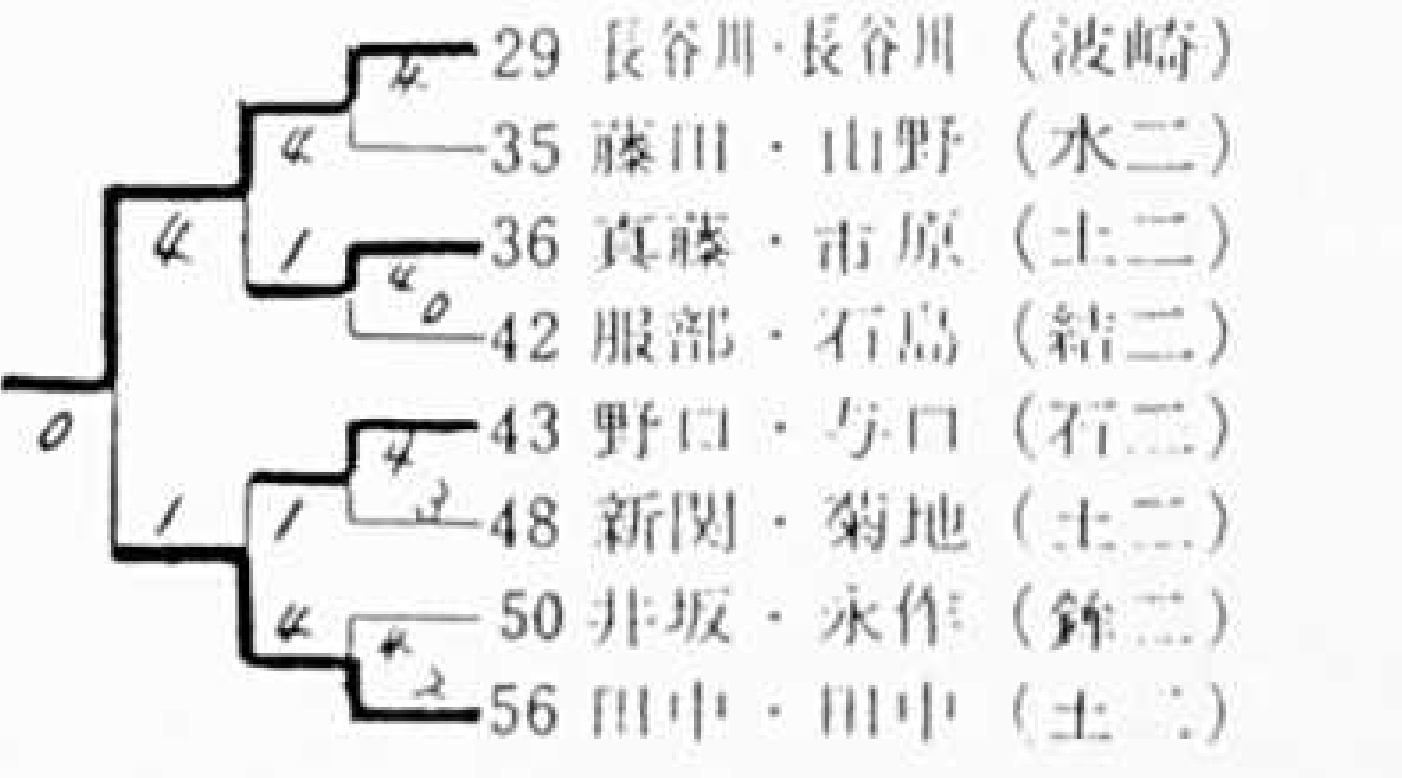
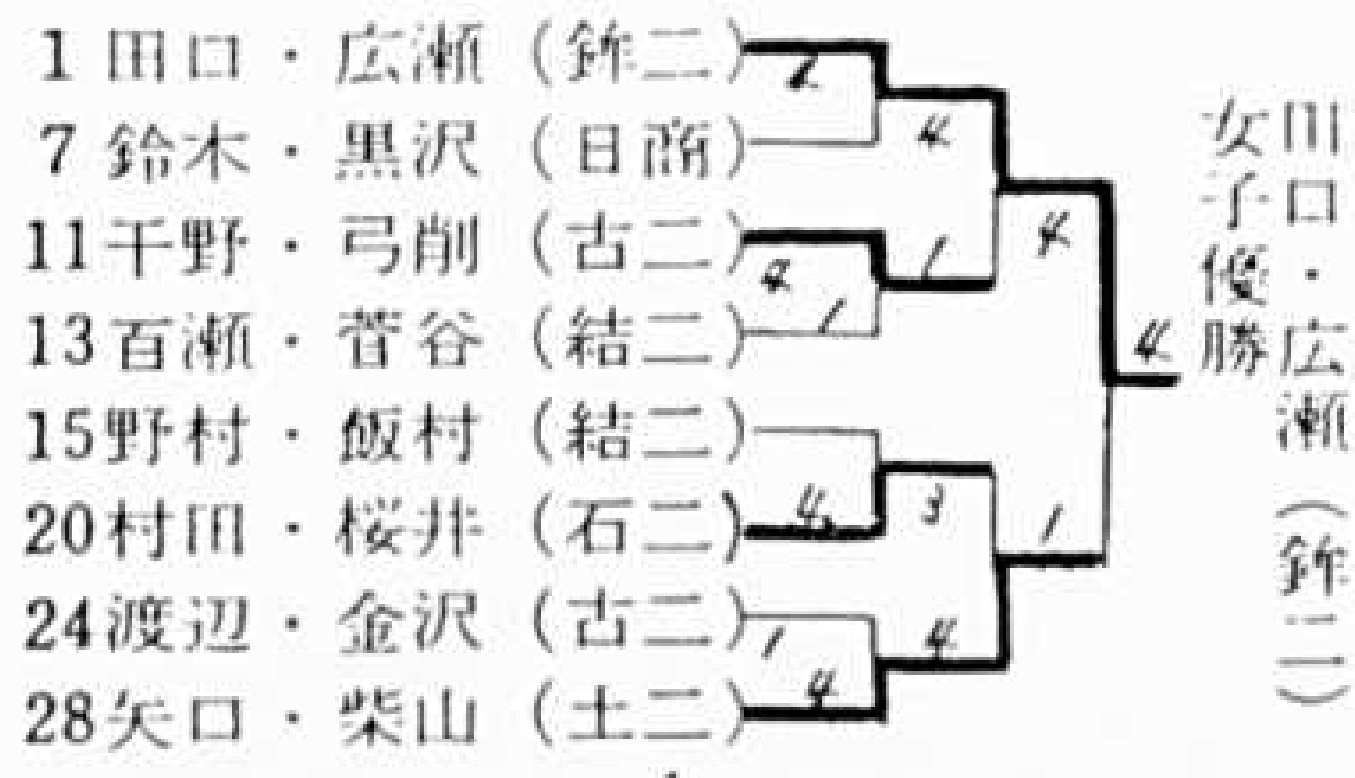
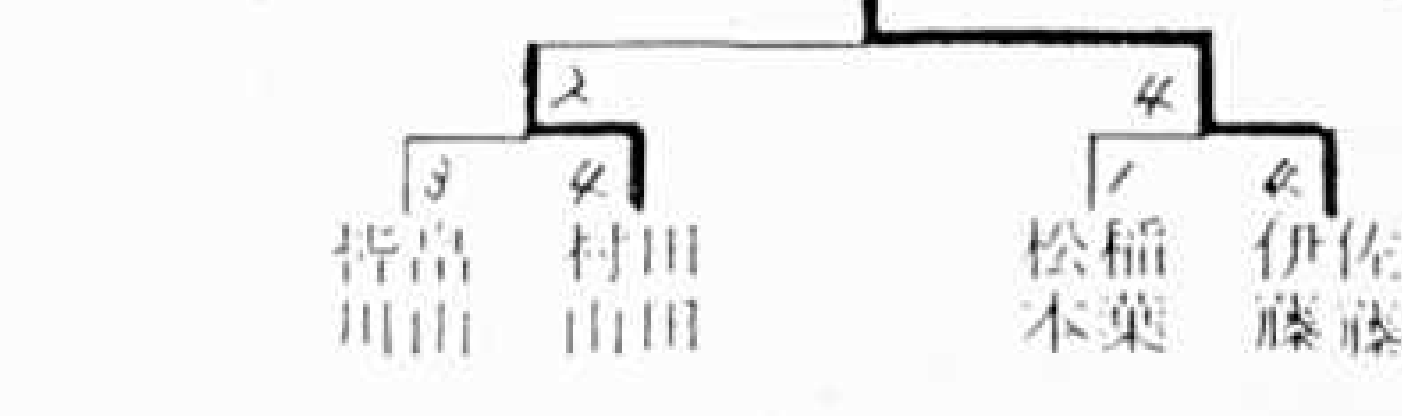
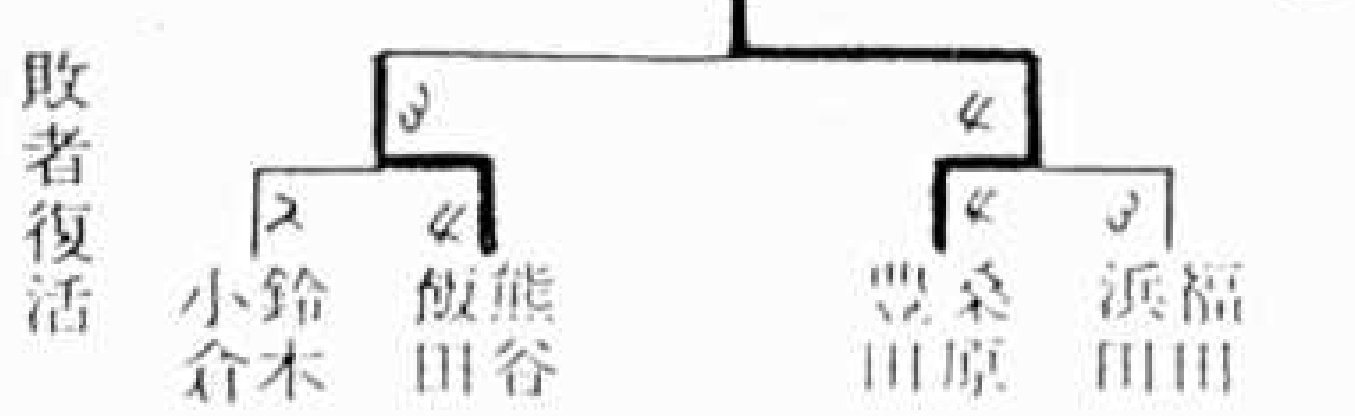
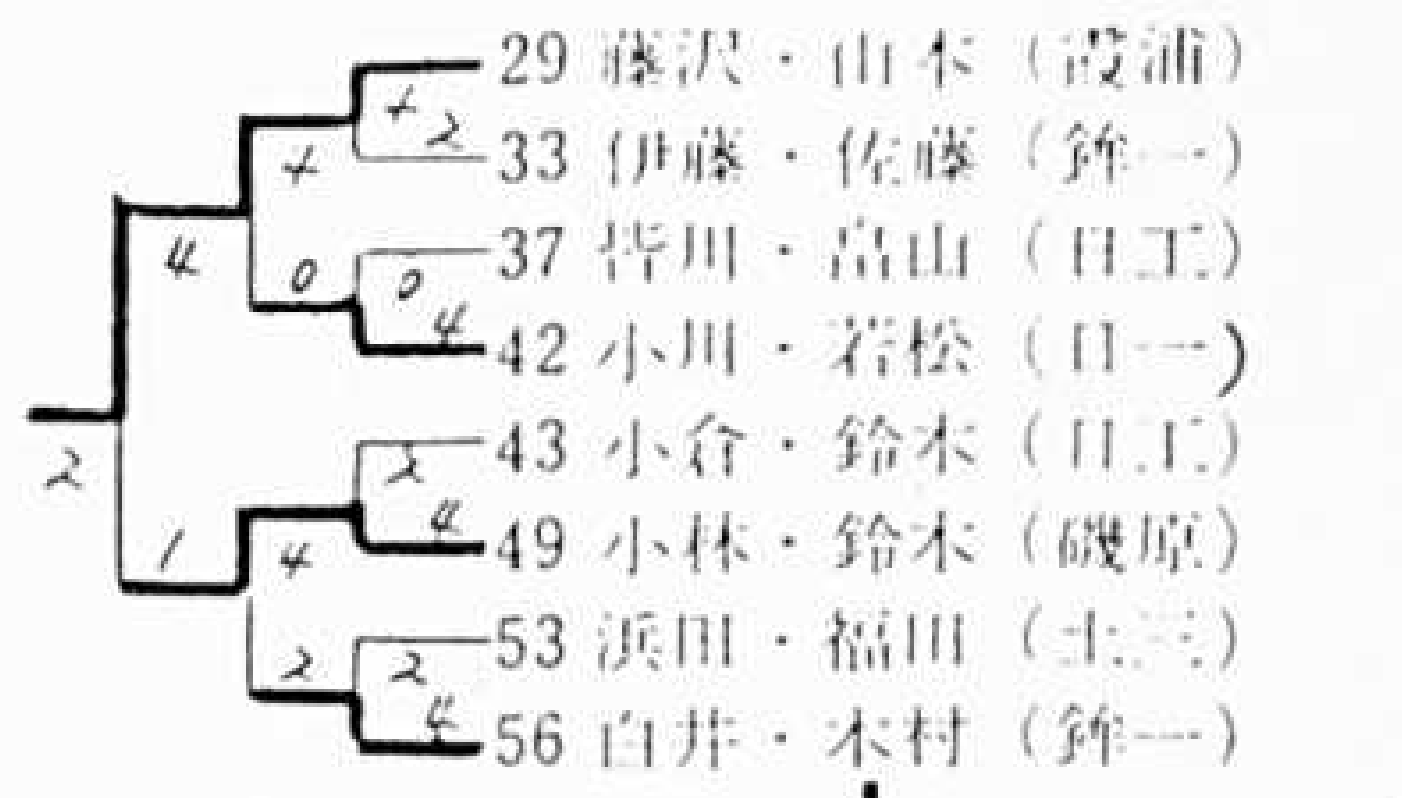
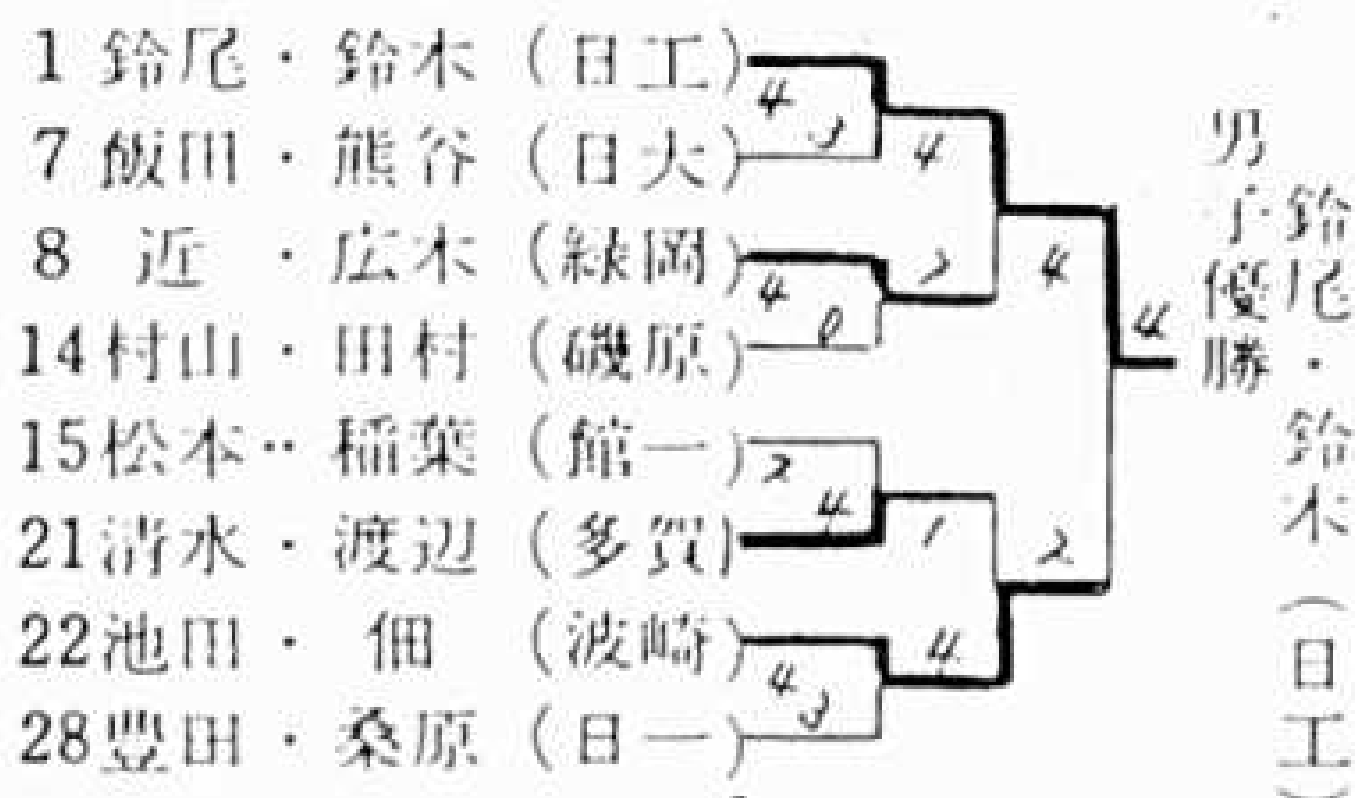
監督 小島 保志
選手 鈴尾誠一, 鈴木健一郎, 小倉譲治,
鈴木重昭, 高木和志, 島田章
補欠 皆川祐一, 畠山豊光

女子 鉾田二高

監督 東野 豊平
選手 田口みつえ, 広瀬さよ, 井坂加代子
永作寿子, 小沼美津江, 伊藤京子
補欠 石崎のり子, 塚田純子

立工を破り晴れの初出場となった。

女子は予選リーグから日立二, 鉾田二, 結城二, 土浦二と強豪が顔を合わせ三辺戦を展開, 最後まで油断できない試合となった。結局予選リーグで鉾田二を3-0で破った。土浦二が決勝リーグで有利に戦いを進め全勝, 五年連続優勝を果たした。



（戦評） 男子は鈴尾・鈴木（日工）が、くい下る藤沢・山本（霞浦）を4-2で振り切って勝ち、関東県予選に続き二連勝。白井・木村（銚一）、豊田・桑原（日一）らは準決勝前に伏兵・池田・佃（波崎）、小林・鈴木（磯原）らにあいなく敗れたことは意外であった。辛うじて代表権を得たが、期待される選手なので試合運びに慎重を望みたい。

その他小川・若松（日一）、清水・渡辺（多賀）、近・広木（緑岡）、伊東・佐藤（銚一）が代表に決定した。

女子は決勝で田口・広瀬（銚二）が長谷川

・長谷川（波崎）を降し心技共に充実したゲーム内容で春季、関東、全日本と県大会直続優勝、三冠王となった。準決勝で矢口・柴山（土二）が田口組と対戦闘志を燃やしたが、稍々力不足の感があった。インターハイには土浦二高が田中・田中、真藤・市原、新関・菊地組と合わせて県代表10組中4組を獲得。更に石岡二の村田・桜井、野口・矢口組を含めて県南勢が6組を数え、県東は井坂・永作（銚二）を入れて3組、県西が古河二の千野・弓削だけとなる。今度の大会で県北、水戸地区に代表選手のないのは淋しい限りである

男子予選リーグ上位成績

- A ①鈴島・鈴木（日工）4勝
- B ①竹林・西野（緑岡）3勝1敗
- C ①藤沢・山本（霞浦）3勝1敗
- D ①本宮・黒須（鹿島）3勝1敗
- E ①近・広木（緑岡）4勝1敗
- F ①小川・若松（日一）5勝

- ②佐藤・伊藤（鉾一）3勝1敗
- ②白井・木村（鉾一）2勝1敗
- ②皆川・高山（日工）3勝1敗
- ②豊田・桑原（日一）3勝1敗
- ②小林・鈴木（磯原）4勝1敗
- ②池田・佃（波崎）4勝1敗

女子予選リーグ上位成績

- A ①田口・広瀬（鉾二）4勝
- B ①田中・田中（土二）4勝
- C ①石島・大野（竜二）3勝1敗
- D ①田中・高野（鉾二）4勝
- E ①小沼・伊藤（鉾二）4勝
- F ①村田・桜井（石二）4勝

- ②鈴木・黒沢（日商）3勝1敗
- ②小林・渋谷（館二）3勝1敗
- ②大野・横田（土二）3勝1敗
- ②真藤・市原（土二）2勝1敗
- ②野口・矢口（石二）3勝1敗
- ②井坂・永作（鉾二）3勝1敗

男子決勝リーグ

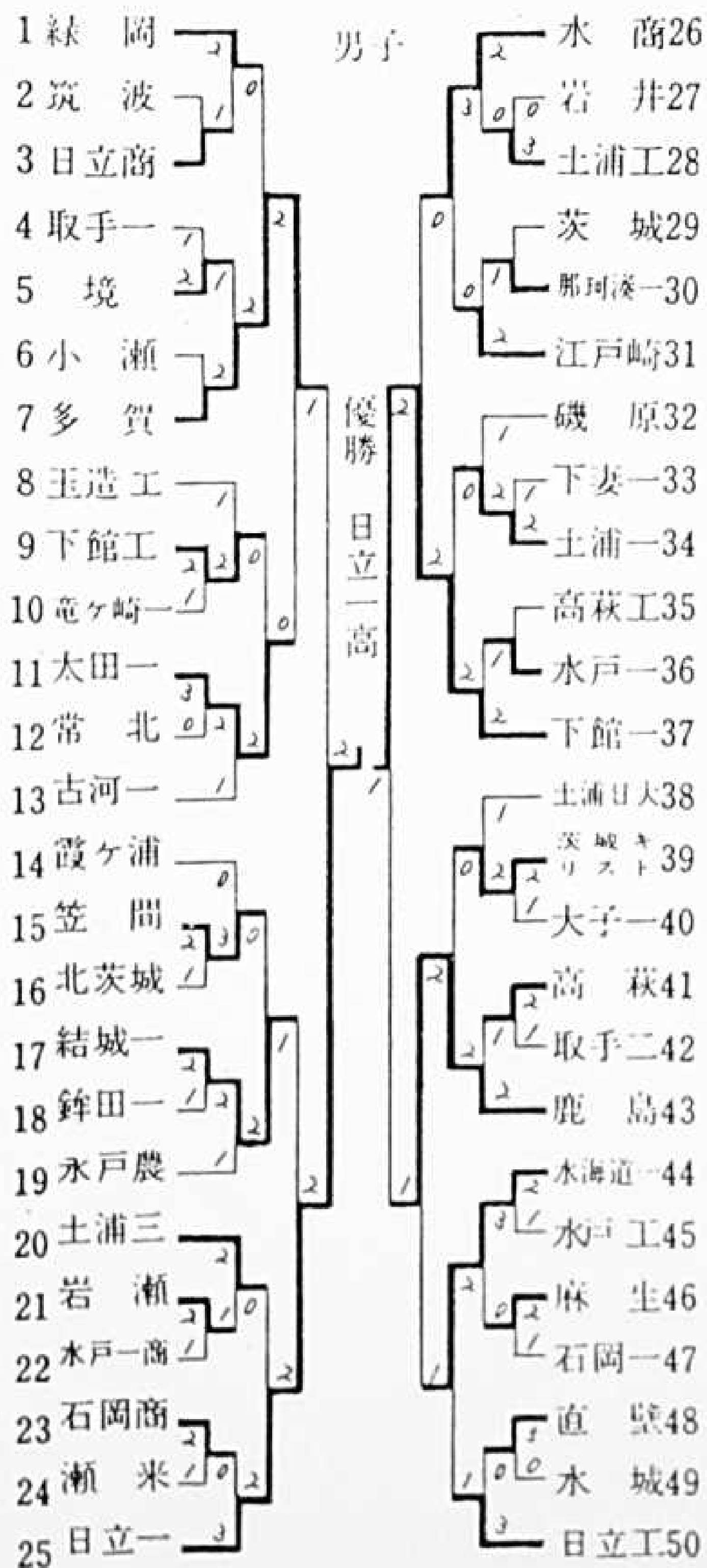
	緑岡	日工	霞浦	鹿島	日一	緑岡	勝点	勝ゲーム	順位	備考
近・広木	④	④	④	④	④	④	5	16	1	県代表
鈴尾・鈴木	2	④	3	1	④	④	2	14	3	県代表
藤沢・山本	2	1	④	2	0	④	1	9	5	
本宮・黒須	3	④	1	0	2	④	1	10	6	
小川・若松	0	④	④	④	④	④	4	12	2	県代表
竹林・西野	1	1	④	④	1	④	2	11	4	

女子決勝リーグ

	館二	土二	竜二	石二	鉾二	鉾二	勝点	勝ゲーム	順位	備考
田中・高野	0	0	2	0	0	④	0	2	6	
田中・田中	④	④	3	④	④	④	4	19	1	県代表
石島・大野	④	④	4	3	2	④	3	17	2	県代表
村田・桜井	④	2	3	④	3	④	2	16	5	
小沼・伊東	④	1	④	3	④	④	3	16	3	
田口・広瀬	④	1	④	④	1	④	3	14	4	県代表

（戦評） 本県最強チーム3組をしぼる国体県予選会は予選リーグから熱戦が展開されリーグ戦だけに最後まで予断をを許さないものがあった。結局男子は心技共に成長した近・広木組（緑岡）が優勝全日本で活躍の小川・若松（日立一）が2位、関東優勝の鈴尾・鈴木は3位となった。平均した力をもつこの3組が本県代表として関東地区予選会に出場することになった。一方女子はこれまでの県大会、関東、全日本など県外大会の成績からみて代表選手はほぼ決った感があったが試合は恐しいものの全くやってみなければ分からないということだ。安定して実力を発揮したのは

田中・田中（土浦二）だけ4勝1敗で優勝。期待の田口・広瀬（鉾田二）は、技にさえが見えず3勝2敗で同一校の小沼・伊藤と同率を争い、苦しい星勘定の末校内事情と代表選手会の結論に救われる結果になった。それにしても、関東大会第3位の長谷川・長谷川（波崎）が予選リーグで敗れたのは全くの番狂わせであった。代って驚異だったのは石島・大野（竜二）である。予選リーグより当り出し決勝リーグでも思い切ったプレーをし2位に入った。村田・桜井（石二）らの活躍も期待したが後半気力がぬけた感じでもう一步気力が欲しかった。



(戦評) 時期的に上につながる大会が終わったのとチーム構成が殆んど二年生でかためられているため、大会の盛り上りに欠けていた。なかには新人戦の前哨戦的な気持ちで参加しているチームが相当あった。

参加要項の一部にミスプリントがあってオープン参加にも拘わらず、参加申込みのして

いない学校が十数校もあったことは残念だった。

来年度は8月中に実施される予定である。尚学校対抗戦の形式をとっているので監督の先生方には選手の集合、試合の進行等々十分御指導を願いたい。

第19回関東高校軟庭選手権

7月22日、23日 千葉市県営コート

1. 戦績 △男子個人戦

- 優勝 鈴尾・鈴木（日工）
- 五回戦 豊田・桑原（日一）
- 四回戦 近・広木（緑岡），清水・渡辺（多賀）池田・佃（波崎）
- 三回戦 白井・木村（銚一），藤沢・山本（霞浦）
- 二回戦 岸本・二階堂（水商），横須賀・原田（緑岡），小川・若松（日一）白井・木村（銚一），小林・鈴木（磯原）
- 一回戦 皆川・畠山（日工），竹林・西野（緑岡），高木・島田（日工），飯田・熊谷（土浦日大），高崎・渡辺（緑岡），小倉・鈴木（日工），給前・黒須（鹿島），村田・田村（磯原），松本・稲葉（館一），安部・窪木（多賀）

△男子団体戦

- 二回戦 日立工業（茨城）1-2 谷村高（山梨）
- 一回戦 日立工業（〃）2-1 逗子開成（神奈川）
- 緑岡高（〃）1-2 渋川高（群馬）

△女子個人戦

- 優勝 田口・広瀬（銚二）
- 準優勝 田中・田中（土二）
- 第3位 長谷川・長谷川（波崎）
- 四回戦 矢口，柴山（土二）
- 三回戦 真藤・市原（土二），小林・渋谷（館二），服部・石島（結城二）
- 二回戦 小沼・伊東（銚二），藤原・林（日二），井坂・永作（銚二），野村・飯村（結二）
- 一回戦 新関・菊地（土二），藤田・山野

（水工），野口，矢口（石二），鈴木・黒沢（日商），津久井・野沢（土二），石崎・堺田（銚二）鬼沢・牧野（銚二），石島・大野（竜二）

△女子団体戦

- 準決勝 土浦二高0-2 松山女子（埼玉）
- 準々決勝 土浦二高2-1 富士見高（東京）
- 1回戦 土浦二高3-0 足利女子（栃木）
- 銚田二高1-2 湘南女子（神奈川）

○ 土浦二高は第3位入賞

2. 戦評

一都七県の男女368組が参加，千葉県営コートで行われた。男子個人戦ではシード組が続々姿を消す波乱気味の中で日立工業の鈴尾・鈴木組が優勝，感激一入深いものがあつた。鈴尾組は5回戦で東京杉並高に苦戦したほかは全部4-1で圧倒し決勝戦も群馬高崎高の清水・細野組を4-2で軽く降した。

続く女子個人戦はこれまた銚田二高の田口・広瀬組が優勝，土浦二の田中・田中が準優勝，波崎の長谷川・長谷川組が田口組と同士打ちで第3位入賞となり，大記録が生れた。男女優勝，女子3位まで独占などということは予想もしなかったが本県テニス水準がここまで来たのかという喜びと同時に今後もやれるという自信が湧いてきた。

団体戦では男子緑岡が初出場で注目されたが一回戦で敗れた。日立工業は善戦，2回戦に進出したが山梨谷村高に惜敗した。女子団体戦は土浦二が好調の田中組を泡え真藤・市原，矢口柴山のメンバーで足利を降し強敵，東京富士見を破り準決勝に進出したが埼玉松山女子に敗れた。今年の土浦二は優勝する絶好のチャンスだったとも云えるが作戦面の研

究が欲しかった。銚田二は神奈川に負け予想に反して不振であった。

43年度全日本高校選手権大会

1. 試合日程

男子 7月29日～7月31日(広島市)

2. 戦績 △男子個人戦

五回戦 小川・若松(日一)

四回戦 鈴尾・鈴木(日工)

三回戦 白井・木村(銚一)

二回戦 近・広木(緑岡), 清水・渡辺(多賀) 小林・鈴木(磯原)

一回戦 伊藤・佐藤(銚一), 豊田・桑原(日一), 藤沢・山本(霞浦), 池田・佃(波崎)

△男子団体戦

二回戦 緑岡高(茨城)0-2 平安(京都)

一回戦 緑岡高(茨城)2-1 青森高(青森)

女子 8月1日～8月3日(呉市)

△女子個人戦

五回戦 田中・田中(土二), 村田・桜井(石二)

四回戦 田口・広瀬(銚二)

三回戦 真藤・市原(土二)

二回戦 矢口・柴山(土二), 長谷川・長谷川(波崎)

一回戦 野口・矢口(石二), 千野, 弓削(古二), 新関・菊地(土二) 井坂・永作(銚二)

△女子団体戦

準々決勝 土浦二高0-2 扇城高(大分)

三回戦 土浦二高2-1 指宿商(鹿児島)

二回戦 土浦二高2-1 岡山南(岡山)

一回戦 16本シード(岡山)

○土浦二高は第4位入賞

3. 戦評

・全日本大会は7月29日より8月3日まで

男子広島, 女子呉市を会場に開催された。

前半男子の試合は台風の影響で雨にたたられ選手の調子が心配された。関東大会優勝の余勢をインターハイに生かそうと本県勢の意気込みは盛んであったが鈴尾・鈴木(日工)が第1シード平安に敗れたのは残念だった。また小川・若松(日一)が好調で5回戦に進出, 活躍したが敗れた。続く女子個人戦では関東大会で上位独占の大物選手を出場させ, その活躍に胸をふくらませたが, 田口広瀬(銚二)が4回戦で十分勝てる試合にあえなく敗れてしまった。しかし村田桜井(石二)田中・田中(土二)は5回戦進出で善戦したがその壁を破ることが出来ず, 昨年並みの成績に終わった。

男子団体戦は初出場の緑岡が2回戦で第2シード平安に押えられたがよく健闘した。女子団体戦は土浦二が準々決勝に進み, 大分代表扇城高と対戦, 途中大事なポイントをミスジャジされ, 監督から抗議のでる一幕もあったが結局2-0で負けた。内容的には2試合ともファイナルで全く伯仲し熱の入った一戦だった。5年連続出場で上位入賞を目指した土浦二としては決勝ならずも準決勝まではゆきたかったろうが, 四位入賞は賞讃してよいだろう。

第23回国体軟式庭球競技関東地区予選

1. 期日 8月24, 25日

2. 場所 埼玉県東松山市市営コート

3. 戦績

△高校男子 第3位(5勝2敗)

茨城2-1東京, 茨城2-1神奈川

茨城1-2千葉, 茨城2-1栃木

茨城0-3埼玉, 茨城2-1群馬

茨城2-1山梨

△高校女子 第6位(2勝5敗)

茨城0-3群馬、茨城1-2千葉
茨城3-0神奈川、茨城1-2東京
茨城2-1山梨、茨城1-2埼玉
茨城1-2栃木

4. 戦評

男女とも必勝をこめて戦った。関東代表は男子が4県、女子が2県である。いづれにしてもきびしい予選であるが、今年の本県のレベルから言えば、男女共代表にはなれる筈。男子は鈴尾・鈴木が初め調子が出ず苦戦した

が後半もり返し、近・広木、小川・若松がよく頑張つて点をかせいだ。千葉、埼玉、茨城が5勝2敗の同率となり順位争いで3位にくい込み、福井国体出場権を得た。

これに反して女子は惨敗だった。最も有望種目であつただけに、又強化練習の効果を期待したせいもあつて、敗れたショックは大きかつた。本当に強い選手を選び出す県予選のあり方などに検討の余地があろう。

昭和43年度県高校軟式庭球新人大会

11月8日・11月9日

男子 県営 水農、緑岡

女子 土浦市営 土浦二高、石岡二高

男子準決勝

皆川 (日工) 4-2 永井
畠山 (日一) 若松 (日一)

竹林 (緑岡) 4-1 神谷
西野 (緑岡) 山崎 (水工)

男子決勝

竹林 (緑岡) 4-1 皆川
西野 (緑岡) 畠山 (日工)

女子準決勝

鈴木 (日商) 4-0 津久井
黒沢 (日商) 入江 (土二)

奥村 (磯原) 4-3 矢口
小谷野 (磯原) 柴山 (土二)

女子決勝

奥村 (磯原) 4-1 鈴木
小谷野 (磯原) 黒沢 (日商)

(評)

両日共、雨にたたられたこの大会も600余の多数の参加者を擁し熱戦が展開された。コート状態が悪く試合進行の遅れがあつたものの、選手各自の協力で予定通り終了することができた。フリー参加だけに一・二回は内容もあまりよくなかつたが、試合数が進むにつれて迫力ある試合がみられた。

新人戦にしてはめずらしくシードチームの活躍が目立った。新人強化のチームがそのまま伸びてきていることは大きな収穫であつた。終始安定した調子で男子は竹林・西野(緑岡)、女子は新鋭奥村・小谷野(磯原)の優勝となつた。

マンモス化する本大会にも組合せ、運営面で反省の要もあるが底辺拡大には意義ある大会といえる。

第3回県高校軟式庭球インドア大会

(関東高校インドア選手権大会県予選)

11月30日 県立スポーツセンター

男子予選 Aリーグ	永井松 (日一)	海老原又 (茨高)	野沢 (妻一)	竹林西野 (緑岡)	順序
永井松 (日一)		④	④	④	1
海老原又 (茨高)	0				4
野沢 (妻一)	2	④			3
竹林西野 (緑岡)	2	④	④		2

女子予選 Aリーグ	奥村小谷野 (磯原)	津久井入江 (土二)	大野田 (土二)	倉井端野 (竜二)	順序
奥村小谷野 (磯原)		④	④	④	1
津久井入江 (土二)	2		④	3	2
大野田 (土二)	3	2		4	3
倉井端野 (竜二)	0	④	3		4

男子予選 Bリーグ	高崎崎辺 (緑岡)	鯉淵畑 (水農)	皆川山 (日工)	神谷山崎 (水工)	順序
高崎崎辺 (緑岡)		2	2	0	4
鯉淵畑 (水農)	④		④	0	3
皆川山 (日工)	④	2		④	1
神谷山崎 (水工)	④	④	0		2

女子予選 Bリーグ	矢口山 (土三)	鈴木黒沢 (日商)	井坂東 (鈴二)	野口矢口 (石二)	順序
矢口山 (土三)		1	④	④	2
鈴木黒沢 (日商)	④		④	1	1
井坂東 (鈴二)	2	1		④	4
野口矢口 (石二)	3	4	1		3

男子決勝 リーグ	永井松 (日一)	皆川山 (日工)	神谷山崎 (水工)	竹林西野 (緑岡)	順序
永井松 (日一)		④	④	④	1
皆川山 (日工)	0		④	1	4
神谷山崎 (水工)	0	2		4	3
竹林西野 (緑岡)	1	④	3		2

女子決勝 リーグ	奥村小谷野 (磯原)	矢口山 (土二)	津久井入江 (土二)	鈴木黒沢 (日商)	順序
奥村小谷野 (磯原)		④	④	2	2
矢口山 (土二)	1		0	2	4
津久井入江 (土二)	1	④		1	3
鈴木黒沢 (日商)	④	④	④		1

〔評〕インドア戦は周囲の環境が異なるので選手の調子は必ずしも屋外コートのようにはゆかないようだ。それでも大きな番狂わせもなく、男子は永井・若松（日一）、竹林・西野（緑岡）、神谷・山崎（水工）、女子は鈴木・黒沢（日商）、奥村・小谷野（磯原）津久井・入江（土二）が順当に勝ち、44年1月6日、東京体育館で行われる関東高校インドア選手権に本県代表として出場することになった。

総監督飯島隆（土二）、男子監督大本弘寿（緑岡）、女子監督酒井和孝（磯原）の各先生にお願いした。今年のインドア戦は審判ミスを防止する意味で正審、副審、線審をつけ決勝リーグは役員の先生に審判台に上って頂いた。寒い体育館の中で朝早くから本当に御苦労をかけた。

関東インドアは毎年勝算を見込んで出場するが惜敗に終わっている。今年こそ期待がもてそうだ。

昭和43年度茨城県高校軟式庭球ランキング選手

高 校 男 子				
順位	学 校 名	後 衛	前 衛	
1位	日立工	鈴 尾 誠 一	鈴 木 健 一 郎	
2位	鉾田一	白 井 光 行	鈴 木 村 邦 夫	
3位	霞浦高	藤 沢 博 仁	山 本 明 雄	
4位	日立一	豊 田 仁 一	桑 原 和 雄	
5位	日立一	小 川 仁 一	若 松 宏 昭	
6位	緑岡高	近 秀 一	広 木 邦 昭	
7位	波崎高	池 田 猛 一	佃 秀 樹 雄	
8位	多賀高	清 水 三 朗	渡 辺 三 雄	
9位	磯原高	小 林 芳 雄	鈴 木 良 美	
10位	緑岡高	竹 林 馨	西 野 俊 昭	

高 校 女 子				
順位	学 校 名	後 衛	前 衛	
1位	鉾田二	田 口 みつえ	広 瀬 さ よ	
2位	土浦二	田 中 美智子	田 中 淑 子	
3位	波崎高	長谷川 敏 子	長谷川 芳 子	
4位	土浦二	真 藤 信 子	市 原 則 子	
5位	石岡二	村 田 治 子	核 井 ヤス子	
6位	土浦二	矢 口 美恵子	柴 山 恵 子	
7位	結城二	服 部 よし子	石 島 栄 子	
8位	下館二	小 林 信 子	洪 谷 幸 子	
9位	竜ヶ崎二	石 島 路 子	大 野 光 代 子	
10位	鉾田二	井 坂 加代子	水 作 寿 子	